

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2026年3月分)

2026年3月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●ベチロビッチBH大統領評議会議長の就任(16日)

●BH憲法裁判所によるRS憲法草案違憲等の決定(27日)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●ウク・サラエボ・カントン政府の総辞職(6日)

●ミオコビッチBH連邦下院議長が解任(12日)

イ スルプスカ共和国(RS)

●ミニッチRS首相の辞任(16日)

●ミニッチRS政府の再発足(17日)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●ベチロビッチBH大統領評議会議長のブリュッセル訪問(16日～17日)

●EU理事会による対BH制裁措置の1年延長決定(30日)

(2) 二国間関係

●BH大統領評議会議長及びBH外相の米国訪問(24日～27日)

(3) 日・BH関係

●日・ボスニア・ヘルツェゴビナ 外交関係樹立30周年記念コンサート(27日)

●開智日本橋学園高校生等の相木大使表敬(27日)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

(2) 経済政策・公共事業

●BH上院でのガソリン価格高騰対策関連法改正案の審議不開催(27日)

(3) 民間セクター

●BH物流コンソーシアムによる抗議活動(23日～)

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●BH独立記念日(1日)

1日、BH独立記念日(1992年3月1日、BHの独立に関する国民投票が実施された日)を迎え、コムシッチBH大統領評議会議長(クロアチア系)及びベチロビッチ大統領評議会ボシュニャク系メンバーによる国旗称揚が行われ、夜には記念レセプションが開催された。同議長は、帝国や多様な国家形態を経験してきたボスニア人の生活は常にそのような枠組みの外側で存続してきたと述べ、自分がボスニア人と言うとき、それはイスラム教徒、カトリック教徒、正教徒が同時に、共に断食を行うような人々のことであると語った(ラマダーン中)。

●ベチロビッチBH大統領評議会議長の就任(16日)

16日、BH大統領評議会議長(国家元首に相当)がコムシッチ同クロアチア系メンバーからベチロビッチ同ボシュニャク・メンバーに交代した。同議長職は、BH憲法に基づき3名による8ヶ月ごとの交代制となっているが、本年10月初旬に実施予定の総選挙で新しいBH大統領評議会メンバーが選出される。

●BH総選挙の新技术機材の調達先をスマートマティック社に決定(19日)

19日、BH中央選挙管理委員会(CEC)は、選挙の新技术導入の落札企業を米国のSmartmatic社に決定し、受注額はおよそ7400万KMとした。31日に、計3社により、当該CEC決定に対する異議申し立てが提出され、今後30日以内に最終決定が行われる見通し。

●BH憲法裁判所によるRS憲法草案違憲等の決定(27日)

27日、BH憲法裁判所は、下記4件のBH憲法秩序に関わる決定を下した。RS憲法草

案、RS政治団体資金法及びBH下院によるEU加盟交渉首席交渉官事務所設置及び任命手続きに関する決定についてはBH憲法と整合しないと判断し、当初から無効とした。他方、本年1月のRS首相任命に関する決定(トリシッチ・バビッチRS大統領代行(当時)の指名によるミニッチ首相の任命)に関しては、RS憲法裁判所の管轄であるとし、受理不能とした。

(2) エンティティ、特別区

ア ポスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●ウク・サラエボ・カントン政府の総辞職(6日)

6日、サラエボ・カントン議会は、ウク・サラエボ・カントン首相の辞任を承認(賛成29名、反対及び棄権なし)し、同政府は総辞職した。ただし、新首相が指名され、新政権が発足するまでの間、引き続きテクニカル・マンデートを継続。

●ミオコビッチBH連邦下院議長が解任(12日)

12日、ミオコビッチBH連邦下院議長(NS)がクロアチア系議員の発議によりDF、SDA、SBiHの賛成を得て解任。本件は、同議長がブライブルクで殺害されたクロアチア人は少数だったとする発言に対するもの。ミオコビッチ氏は、解任発議は謝罪の後に行われたことから、発言内容によって解任されたようには見えないと語り、本議会とBH連邦が危機に陥らないよう、できるだけ早急に新たな議長が選任されることを強く望むと語った。

イ スルブスカ共和国(RS)

●バニャ・ルカ基本裁判所によるSNSD党首の登録削除の拒否(5日)

5日、バニャ・ルカ基本裁判所は、ドディック氏のSNSD党首としての地位を削除する旨のBH裁判所裁判官による要請を却下する旨を最終決定した。

●ミニッチRS首相の辞任(16日)

16日、ミニッチRS首相が辞任を表明し、同日のRS国民議会で辞任が承認された。同首相は、今回の辞任に関し、自分の元を訪れた各国大使たちが現政府の法的正当性に疑問を抱いていると伝えてきた旨を紹介しつつ、トリシッチ・バビッチRS大統領代行(当時)の指名ではなく、カラン新RS大統領の下で再指名されることになることが重要であると述べ、自分が再指名されることを確認した。その一方で、同首相は、今回の決定はRS政府の安定のためであり、BH憲法裁判所や外国の大使館のためではないと強調した。

●ミニッチRS政府の再発足(17日)

17日、RS国民議会は、カランRS大統領の指名に基づき、前日に辞任が承認されたミニッチ氏をRS首相に再選出し、ミニッチRS政府の再発足を承認した(RS国民議会83名の内、49名が投票、49名が賛成、反対なし、棄権なし)。前回の閣僚名簿からの変更はなかった。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●ベチロビッチBH大統領評議会議長のブリュッセル訪問(16日～17日)

16日から17日にかけて、ベチロビッチBH大統領評議会議長(ボシュニャク)は、ブリュッセルを訪問し、コスタ欧州理事会議長(EU大統領)、シェケリンスカNATO事務次長、カッラスEU上級代表(外務・安全保障問題)、ドラゴーネNATO軍事委員長と会談した。「ベ」議長は、BHの欧州統合に向けて固くコミットしていく旨を述べ、政治、経済及び安全保障等の広範囲にわたるEUによる支援に対し感

謝を伝えた。コスタ欧州理事会議長は、EUがBHの主権、独立及び多民族性に対し強くコミットメントしていくことを繰り返し強調し、改革プロセス及び西バルカン成長計画の履行に向けた関係強化の必要性について合意した。

●EU理事会による対BH制裁措置の1年延長決定(30日)

30日、EU理事会は、ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)に対する制裁措置(制裁レジーム)の延長を決定した。これによりEUは、EUの主権、領土一体性、憲法秩序および国際的主体性を損なう個人または団体に対して、引き続き対象を絞った制限措置を科す権能を維持し、国内の安全保障状況に深刻な脅威を与える者や、デイトン和平合意を損なう者に対しても、制限措置を科すことが可能となる。本枠組みに基づく制限措置には、資産凍結、資金提供の禁止、ならびに自然人に対するEUへの渡航禁止が含まれる。

(2) 二国間関係

●BH大統領評議会3メンバーによるローマ教皇レオ14世との会談(9日)

9日、BH大統領評議会3メンバーは、バチカン市国を訪問し、ローマ教皇レオ14世と会談した。会談では、昨今のBHの政治及び社会情勢、及びグローバル情勢に関する意見交換が行われ、法の支配の強化と、相互的な信頼の醸成を通じた、建設的な政治対話の重要性が強調された。

●ベチロビッチ大統領評議会議長とギンケル米臨代の会談(18日)

18日、ベチロビッチ大統領評議会議長は、ギンケル米臨代と会談し、南部相互接続プロジェクト及び国有財産問題について議論した。同議長は、南部相互接続プロジェクトを戦略的な優先課題の一つと位置づけ、エネルギー

安全保障及び供給源の多様化による国家のレジリエンス強化の重要性を強調。他方で、同議長は、国有財産問題に関し、BH憲法裁判所の判例に遵守する形での、BH国家の排他的権限を強調した。同米臨代は、米国はBHの独立、主権及び領土の一体性への支持を確約し、多民族的性格のBHを引き続き支援していくと述べた。

●コナコビッチBH外務大臣とグルリッチ＝ラドマン・クロアチア外務・欧州大臣の会談(19日)

19日、コナコビッチBH外務大臣は、サラエボを訪問中のグルリッチ＝ラドマン・クロアチア外務・欧州大臣と会談し、両国間の良好かつ安定的な関係について確認し、EU加盟に向けた協力の方向性について議論した。特に、BHからシェンゲン圏に向けての運送が滞留している課題につき、適切な解決策を模索することで合意した。

●BH大統領評議会議長及びBH外相の米国訪問(24日～27日)

24日～27日、ベチロビッチBH大統領評議会議長(ボシュニャク・メンバー)及びコナコビッチBH外務大臣が、サラエボ・ハガダの紹介イベントのため米国ワシントンを訪れ、ランドー米 국무副長、米連邦議会議員及び政府高官等と会談した。演説の中で、ベチロビッチBH大統領評議会議長は、BHは異なる文化と宗教が出会い、それらの架け橋となる国であり、宗教的ナラティブを操作すること、反ユダヤ主義を持ち出すこと、イスラム嫌悪主義のすべてが、BHという国の本質に反していると語り、サラエボ・ハガダは、このような厳しい試練の中を生き抜いてきた多様性のシンボルであることを強調した。

●ベチロビッチ大統領評議会議長とエルドアン・トルコ大統領との会談(28日)

28日、ベチロビッチ大統領評議会議長(ボシュニャク)は、イスタンブール・ドルマバフチェ宮殿を訪問し、エルドアン・トルコ大統領と会談した。同会談は、BHのNATO加盟の戦略的価値及び二国間の経済協力について議論した。また、同議長は、エルドアン大統領に対し、RS指導部によるロビー活動の現状を報告した。一方、同大統領はBHの独立、主権、領土一体性を脅かす者は誰も容認できず、我々が、二国間の紐帯をさらに強固なものにしていくと語った。

(3)日・BH関係

●日本・ボスニア・ヘルツェゴビナ 外交関係樹立30周年記念コンサート(27日)

27日、サラエボ交響楽団と日本人指揮者の木許裕介氏による日本・ボスニア・ヘルツェゴビナ外交関係樹立 30 周年記念コンサートが当地国立劇場にて開催された。相木大使は、オープニングにて挨拶を行い、今次のコンサートが両国の友好関係を更に深める機会となることを望むと言及した。コンサートでは、久石譲氏や武満徹氏などの日本の楽曲が演奏され、観客を魅了した。



(写真:コンサートの様子)

●開智日本橋学園高校生等の相木大使 表敬(27日)

27日、海外研修のためボスニア・ヘルツェゴビナを訪問中の開智日本橋学園高校の生徒および引率教諭計22名が相木大使を表敬した。同訪問は令和5年にはじまった同校とサラエボ第三高校の相互交流に基づくもので、令和7年12月に続き行われたもの。

同校の生徒からは、日・ボスニア・ヘルツェゴビナ関係発展の可能性や両国文化の違い等について活発な質問が出された。これに対し相木大使より、各国の文化や社会生活習慣について多角的な視点を養うため、英語に加え更に多くの外国語を学ぶことが有意義である等、生徒達を激励した。



(写真:表敬訪問の様子)

3. 経済

(1)経済指標(出典: BH統計局)

●工業生産指数

2026年3月の工業生産指数は、季節調整後数値で前月比1.3%マイナス。前年同月比8.8%プラス。

●雇用／失業率

2026年3月の失業者登録数は31万4280人(うち女性18万6681人)で、前月比で0.4%マイナス、前年同月比で3.1%マイナス。

●平均給与

2026年3月の平均給与(手取り)は1,680 KMで、前月比で名目賃金は2.2%プラス、実質賃金は0.5%プラス。前年同月比で名目賃金は9.5%プラス、実質賃金は4.2%プラス。

●消費者物価指数

2026年3月の消費者物価指数は前月比1.7%プラス。前年同月比で平均5.1%プラス。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比0.9%のプラス。

●貿易収支

2026年3月のBHからの輸出総額は42.54億KM(前年同期比0.5%増)、BHへの輸入総額は72.55億KM(前年同期比0.9%増)。貿易収支は31.01億KMの赤字。

(2)経済政策・公共事業

●BH上院でのガソリン価格高騰対策関連法 改正案の審議不開催(27日)

27日、BH上院は、ガソリン価格高騰対策として物品税法の改正の審議が予定されていたが、SNSD及びHDZ議員が出席せず、定足数不足で審議は実施されなかった。17日、BH下院が物品税法改正案を採択し、ガソリン価格に含まれる物品税の徴収を一時的に停止する措置をとることが規定された。しかし、ブリッチBH下院議員(SNSD)等は、ポピュリストによる政治的パフォーマンスであると批判。他方で、マガジノビッチBH下院議員(SDP)等は、ドディック党首率いるSNSDは、エネルギー価格の高騰さえも、政治的な人質として悪用し、怠慢であるばかりか、意図的に知らないふりをしようとしていると強く非難した。

(3)民間セクター

●断食の明けの日(ラマダーンの終了)(20日)

20日、BHのイスラム教徒は、ラマダーン(30日間の日没後の断食月)を経て、イード・アル・アドハーを祝った。BHのムスリムコミュニティでは、カバゾビッチ・イスラーム法学者(ウラマー)が、イスラム教徒であろうと、ユダヤ教徒であろうと、サービア教徒であろうと、キリスト教徒であろうと、兄弟姉妹の愛をもって傷ついた人々の涙を拭き、神と最後の審判を信じ、全能なる神の御言葉を心に留めようと呼びかけた。

●BH物流コンソーシアムによる抗議活動(23日～)

23日、BH物流コンソーシアムは、シェンゲン協定加盟国におけるBH出身の職業運転手の滞在制限、ひいては就労権の侵害に対し、抗議活動を実施することを関係機関に通達した。この問題は、シェンゲン圏において新たな出入国管理システム(EES)の導入を進められており、バルカン半島のトラック運転手らは、観光客と同様に180日間で90日間の滞在制限を課されており、業務に支障が出ることから頻繁に抗議活動を実施。今回は、延べ200台のトラックが集結し、BHの国境検問所を封鎖した。同コンソーシアムは、BH出身の職業運転手は、必要な書類、免許、許可証をすべて所持しているにもかかわらず、なぜ91日目以降は脅威とみなされるのかと疑問を投げかけ、国際輸送に対する付加価値税(VAT)の還付、公平性の確立、手続きの迅速化、国境での待ち時間の短縮を目的とした18項目の合意事項の実施を求めた。セルビアの商工会議所によれば、これらの制度的制約により、バルカン諸国は商品輸出のみで1日あたりおよそ1億ユーロの損失を被っていると指摘されている。